

- ら自身のペースで全体的な進展を遂げることを可能にするために開発されたものである。
- ・時間と資源は非常によく活用されている。職員は自分自身のタイムテーブルを作成しており、雷を見たり、雪を経験したりといった学習の機会が生じたときには柔軟に対応することができる。
 - ・非常によく開発された評価システムによって、子どもたちの達成状況、次の段階へ進むために必要な事柄が明確に示される。
 - ・子どもたちは粘り強さをもち、課題を的確にやり遂げることができる。さらに達成感や自尊心を示す。彼らは、遊んだり作業したりしながら、彼らのつくった模型や絵画について話したり、家庭や家族の出来事について好んでよく話したりする。
 - ・食事とおやつの時間は、リラックスした家庭的なスタイルである。テーブルがきれいにセットされており、子どもたちは場をわかまえることを感じとることができる。子どもたちは、きちんと自信をもって行動し、友達や職員との会話や食べ物を楽しむ。
 - ・子どもたちは話すことや聞くことといった重要なリテラシースキルの発達を促すようにデザインされた活動に参加することで、有能な話し手や聞き手になる。学齢に近づくか、レディネスを示したときには、文字の音や読みのスキルの前段階を導入するような、より構造化された授業に参加する。子どもたちは、ごっこ遊びやトピックワーク (topic work) においてさまざまな目的のために書く。また、本やお話を日課の一部として楽しんでいる。
 - ・数学的なスキルや概念は、自由遊びにおいて並べ替えたり順序付けしたりするような数学的な道具を用いることで発達する。パズルや組み立てキットによって、形や空間の概念が面白く意味ある方法で導入される。問題解決や初歩の計算スキルを導入するの
- るのに、コップや果物やビスケットを配るお手伝いなどの日課が利用される。砂、水やその他の物質を用いて、重さや測定の概念を探求する機会が提供される。
- ・家庭用の道具や、CD プレイヤー、デジタルカメラ、電気のおもちゃなどのテクノロジーを用いたごっこ遊びといった、トピックや毎日の活動を通して、現実世界に関する知識や理解の発達が促される。さまざまなプログラムをやり遂げるスキルが発達するのに伴い、子どもたちは基本的な情報テクノロジースキルに堪能になり、マウスやキーボードを使用することができるようになる。
 - ・動物病院の看護師のような園への訪問者があるときは、彼らのスキルや動物と共にどのように働いているかを子どもたちに見せる。
 - ・子どもたちは庭で見つけた虫や自然物を調べるために虫メガネを使うことができる。
 - ・子どもたちは保護者と夏に動物園への遠足を楽しみ、その行事を思い出すために写真を見ることができる。
 - ・園庭に備え付けられた大きな遊具は外遊びで自由に使用することができ、身体的発達が促される。キャッチしたり投げたりするスキルを促す小さな遊具や、乗ったり操縦したりすることができる車輪つきのおもちゃもある。
 - ・子どもたちは、さまざまな道具を用いることで微細な筋肉を発達させる。また、食器や調理用具も使用することができる
 - ・美術と工作の活動のプログラムにおいて、色を混ぜることや異なるメディアが導入され、創造性の発達が促される。事前に決定された目標なしに、描いたり、印刷したり、コラージュをしたりすることができ、創造を通して自分自身を表現することができる。
 - ・音楽は日課の一部であり、歌や楽器の演奏

が行われる。特に天気が悪く外で遊ぶことができないときは、活動的な音楽と動きのセッションが行われる。

○子どもたちの積極的な参加への援助：
outstanding

- ・子どもの個別のニーズがよく把握されており、子どもが最も興味を持っていることを念頭に置いて保育がなされている。たとえば、好きな学習のスタイル、遊び、食事と睡眠のパターン、お気に入りのお話や活動など。子どもの個別のニーズは、すべての時間において考慮される。個別化された保育は、保護者との定期的な話し合いや、子どもを観察することによって達成されている。
- ・すべての子どもたちへの統合保育がなされており、さらなる援助が必要な子どもたちに対して、彼らが園の日課のすべての側面に触れ、最大限の進歩を遂げることができるよう、きめ細かい援助がなされている。必要なときには外部の専門家からの援助や指導が行われる。保護者は情報を受け取り、職員と親密に協働することが保証されている。
- ・各教室は異なる鳥にちなんで名づけられ、それがやわらかいおもちゃであらわされているため、子どもたちは園でのアイデンティティの感覚を発達させることができる。子どもたちはその鳥を家に持って帰り、たとえば休日にどこに行ってきたかを報告する。これは、ポピュラーな活動であり、子どもたちが園の生活に貢献していると感じたり、家庭と園には重要で楽しいつながりがあるということを実感したりするのを助ける。
- ・家庭的なスタイルの集団において仲間や保育者との良好な関係を発達させることができる。子どもたちの行動は、職員のポジティブで明確なマネジメントと、子どもの

発達に関する知識に基づく現実的な期待の結果であり、他の模範となるものである。

・保護者や carer とのパートナーシップは傑出している。

- ・園は保護者や carer との良好な関係を育成するために努力している。入園の際に詳細情報が聴取され、頻繁に更新されるため、職員は子どもに影響を与えるすべての関連情報と変化について把握している。
- ・保護者に対し、園生活のすべての側面について多様な方法で通知がなされる；学校案内、定期的に発行されるニュースレター、各教室に備え付けられた掲示板等。
- ・保護者は、子どもたちの発達の記録を見ることができ、子どもたちの成長や関心事について、担任 (key workers) と話し合うことができる。これは、日常的にインフォーマルになされるだけでなく、オープンセッション中にも設定される。オープンセッションでは、すべての保護者と carer が園に招待され、活動に参加してみることができ。
- ・子どもたちは日誌を家に持ち帰る；保護者はコメントや情報を付け加えることができ、担任と家庭との接点として利用されている。
- ・子どもたちの精神、モラル、社会性、文化の発達が促進されている。
- ・子どもたちは自立することと助け合うことを学んでいる。子どもたちは自分自身の文化や他の文化をトピックや日常の活動を通して学ぶ。子どもたちは行為の結果や人々がどのように感じるかを考える。子どもたちは、子ども同士、また周囲の大人とあたたかく、友好的な関係を築いている。

○組織：outstanding

- ・職員は、園で働く適性があることを確認するために必要なすべてのチェックを受けている。厳しい検査を受けていない職員やボ

- ランディアが、監督なしで子どもたちに接することはないことが保証されている。職員チーム内には非常に高いレベルの資格が存在し、トレーニングに参加している職員はよく支援されている。
- ・担任は、子どもたちの日々の福祉について責任を持ち、発達の記録をつけ、保護者と連絡を取っている。職員と子どもの割合は、すべての子どもたち個々に注意を払うことを保証するために必要とされる最小の値を超えている。
 - ・部屋には高品質の家具と備品が備え付けられており、子どもたちに変化にとんだ面白い一日を提供するのに空間が上手に利用されている。たとえば、子どもたちは教室で小グループで作業したり、上の階へ行って窓から鳥を観察したり、変わりゆく季節を経験したり新鮮な空気を味わうために外で遊んだりする。
 - ・すべての書類は所定の位置に保管され、細心の注意が払われて高水準に保たれている。園は、同じ経営者の下に設立されたグループの一員であるため、方針や手続きについてのよい実践がグループ内のすべての保育者間で共有されている。
 - ・すべての書類は、正面玄関の近くの中央オフィスに保管され、機密が保たれている。職員は必要な書類を手に入れることができ、進行中の日々の記録は教室に保持されている。
 - ・リーダーシップとマネージメントは傑出している。
 - ・園には、個々の子どもたちの発達と達成に焦点を当てた明確なビジョンと理念が存在する。職員は、モチベーションが高く、熱心である；彼らはアイデアを持ち寄り、実践にポジティブな影響を与えている。職員は自分の価値を実感しており、チームとしてよく働き、高い水準の保育と教育を提供するために最大限の努力をしている。
 - ・職員は、事務仕事を完成し、記録を最新のものにしておくための時間が与えられている。
 - ・毎週、マネージャーの会議では、ルームリーダーにその週の活動やニュースが手短かに伝えられ、職員は定期的に全体で集まり、必要なときには小さなチームで集まる。
 - ・職員は、室内外の環境を、子どもたちの作品で明るくカラフルに飾り付けていることに誇りを持っている。
 - ・監査と評価の継続的なシステムが存在し、活動がうまくいっているかどうかを判断するための話し合いが行われる。将来の計画に情報を提供するプロセスである。職員の専門性向上のためのニーズは、定期的な評価を通して取り組まれる。そのプロセスに職員は十分に関わり、彼らの観点が検討され評価される。職員は園のすべての側面や日々の経営について意見を求められる。また、Ofsted の自己評価フォームを完成させ、彼らの観点について話し合う機会を持つ。
 - ・マネージャーは、トレーニングが最近の動向や発展に遅れないための方法であり、最大限可能な保育と教育を提供するための規範を育てる方法であるという強固な信念を持っており、このビジョンに取り組むための十分な支援をオーナーから受けている。
 - ・職員は頻繁にトレーニングデイやコースに参加し、スタッフミーティングの際に知識を他の職員に伝達する。また、その知識を子どもの保育に役立てている。
- 過去の評価以来の改善点：適用なし
- 過去の評価以来の不十分な点
- ・登録以来報告すべき不十分な点はない。
 - ・保護者からの苦情の記録については、保管することが求められる。

◆ 将来の改善のためになすべきこと

○保育の質と水準

・保育の質と水準は傑出しているため、改善することが推奨される点はない。

○教育の質と水準

・教育の質と水準は傑出しているため、改善することが推奨される点はない。

③イギリスにおける第三者評価の実態に関するまとめと考察

- ◆ 第三者評価に対するイギリスの保育・幼児教育施設の対応の特

徴

イギリスで訪問した5つの施設で共通にみられた第三者評価に対する対応は、国の基準カリキュラムである Foundation Stage のすべての面についての一覧表を職員がいつでも見られるように、掲示版などに掲示していたことである。

このことは日本でいえば、保育指針や幼稚園教育要領を表にして掲示しておくのと同じ意味である。このことによって、国の Foundation Stage の全体像がいつでも全職員によって共通理解されることになる。またこうした表を掲示することで、全職員に理解できるように努力しているとみなされ

第三者評価においても、「幼児教育」の項目

について評価が高くなるともいえる。

またどの園でも、週案などが各クラスごとに掲示されていた。中には日々の活動を掲示している園もあった。日本ではこうした日々の指導計画は公表しないのが普通である。しかしイギリスでは、どの子に対してどのような指導をしているのかを、保護者も含めて情報公開することが求められていることがわかる。

さらに、保育が終了してからどの子がどのような活動に取り組んでいたかを、チェックリスト表や個別記録表などに書き込んでいた。これは日本でいえば、個人記録を毎日書いていることに相当する。こうした活動への個別の取り組みをチェックすることで、個々の成長を判断していくという方法がイギリスでは用いられていることがわかった。またこうした記録がないと第三者評価が低くなるものと思われる。

このように第三者評価されることによりどの施設においても、基準カリキュラム・

計画・記録がいつでも連続性をもって展開されていることや、いつでも必要なときにそれを公開することができるようにしていることが、現在のイギリスの保育・幼児教育施設を特徴づけているといえる。

◆ 第三者評価において評価の高い保育・幼児教育施設の共通点

イギリスで訪問した保育・幼児教育施設のうちで、第三者評価での最も高い評価である Outstanding と判定されていた2つの Kindergarden には、次のような共通した特徴がみられた。なおこの2園は、いずれも乳児から就学前までの乳幼児を保育しており、日本での保育所と幼稚園が一体化した総合施設であるといえる。

第1は、環境的な質の高さと快適さが保障されていることである。園舎の周りは塀や木の柵などで仕切られており、安全性が確保されていた。また園舎内は落ち着いた色調であり、廊下も広々していてソファや掲示板、植栽などが配置されていた。家具や教材は安全で高品質なものであり、保育室内に整理され、使いやすく配置されていた。また子どもたちの作品や様々な絵や図が、廊下や保育室に見やすく掲げられていた。年長児の保育室の絵や図には、単語が添えられており、文字と対応できるように配慮されていた。いずれの施設も家庭的な雰囲気が高く、いわゆる日本の学校のような雰囲気ではなかつた。

第2は、園長のリーダーシップの質の高さである。2園とも女性の園長であったが、性格は明るくて聡明であり、てきぱきと職員に指示をだしていた。また職員の信頼が厚く、職員はそれぞれの役割を自覚し、細やかに保育を展開していた。保護者の信頼も得ていて、保護者と楽しそうに会話していた。こうした園長のリーダーシップの質の高さは、日本においても期待されているが、乳児から幼児までを保育する総合施設

では、明るさとこまやかさと全ての年齢の子どもたちの発達を理解している聡明さが求められているといえよう。

第3には、活動のリズムが動と静の調和がとれており、個々の活動が保障されていることである。この2園においては、各年齢の子どもたちの姿が落ち着いていて、訪問中にトラブルは全く見られなかった。各コーナーは、子どもたちが取り組みやすいような準備がなされており、それぞれの関心に基づいて充実した活動を展開していた。

こうした活動が展開されるためには、保育室の環境構成がよく考えられていることと、十分な教材や教具が備えられていることが求めている。さらにはそうした環境構成が行える保育者の質の高さも求められる。

こうしたことから、イギリスの第三者評価で高い評価を得るためには、物的・人的な質の高さが求められていることがわかる。

◆ イギリスの総合施設における第三者評価の問題点

われわれが訪問した5つの保育・幼児教育施設のうち、複合施設としての地域支援センターは第三者評価が Satisfactory と低かった。そこにはイギリスの評価における次のような問題点が浮かび上がってくる。

第1に、Outstanding と高く評価された2つの施設はいずれも70名前後の園児数で規模が大きくはなかった。そのために園長の目が行き届き、職員や園児に対する理解もできていたし、強いリーダーシップを発揮することもできていた。

それに対して地域支援センターは複合施設であり、保育所施設と幼稚園施設、さらには家庭支援施設や発達支援施設、研究所など、多様な施設が複合的に配置されていて規模が大きいために、いわゆる家庭的な雰囲気よりも大きな学校か施設という雰囲気が強かった。またセンターではそれぞれの施設の責任者がリーダー性を有して、合議的に運営して

いた。こうした運営の仕方が、イギリスの第三者評価では、低く評価されている可能性がある。

第2に、家庭的な雰囲気と落ち着きが感じられた背景には、子どもたちが無邪気に遊ぶ姿は少なく、ゆったりと過ごしながら絵本を見たり、パズルをしたり、絵を描いたり、ゲームをするなどして過ごす姿が多く見られた。

子どもたちが水や泥などで遊ぶ姿は、低く評価されたセンターでしか見ることができなかった。そのセンターは、起伏のある広い園庭を有しており、子どもたちが隠れられる小屋や遊べる固定遊具がよく考えられて配置されていた。また水遊びのできる人工的な小川や、中庭には自由に遊べる大きな砂場が設置されていた。子どもたちは廊下を思い切り走り回り、日本の幼児たちと同じようにスーパーマンごっこをして遊んでいた。

私たち訪問者は、このセンターの環境の方が日本の保育園や幼稚園の環境と類似している感じたが、このように遊びを展開しながら子どもたちが友だちとにぎやかに過ごす環境では評価が低くなされるのだろうか。今回の調査だけではこの点については明らかにできなかった。

第3に、日本と比べると集団活動が少ないことである。どの園でもコーナーごとに課題意識をもって取り組む活動が設定してあり個別に関心のある課題に取り組む姿が多く見られた。

こうした姿はおそらくイギリスの保育では長年の伝統から来ているものなのであろう。第三者評価をするときには、判断の根拠としてその国の一般的な保育のイメージが強く影響してくることがわかる。

(2) 評価システムに関する提案

① 自己評価を基盤とする評価システム

保育は、子どもの実態把握に始まり、計画・

実践・省察、評価の繰り返しであり、このプロセスを通して保育の改善が図られ、質が高まっていくことに繋がる。保育は、子どもと保育者、保護者等保育に関わる者の相互作用を通して創造していく営みである。一人ひとりの職員の力量・資質が問われ、その職員の力が結集することにより、組織としての質が高まると考えられる。

図5で示すように、「Plan-Do-Check-Act」を日常的な保育実践を通して継続することが保育の質の向上と、就学前の保育・教育を担う施設の組織力を強化していくために必須のものと言える。その際、個々の自己評価と施設内だけの「Plan-Do-Check-Act」ではなく、自己点検を外部評価に繋げていくことが重要である。補章でも示されるように、自己評価は、保育実践を自ら、主体的に振り返るという大きな意義がある一方で、問題が存在していても認識できず、見逃してしまう、あるいは問題の存在は意識しても、解決に向けて責任の追求や人間関係の対立等を恐れて、形式的な評価になり、徹底した対応を避ける傾向等の課題がある。

従って、評価は、自己評価・自己点検と外部評価の適切な循環が何よりも必要な要件である。本研究において提示する、認定こども園等幼保合同保育実施施設における評価システムは、図6に示すように、「自己評価を基盤とする自己変容を視野に入れた評価基準・評価システム」である。施設内で一人ひとりの保育者・給食担当者等職員と施設長による自己評価を基盤とし、外部評価につなげるシステムである。自己評価を行う際、園内研修の場を活用して、自らの保育実践や取り組み等について、同僚や施設長、ときには、研究者等外部の専門家等も交えて、語り合うことの重要性が本調査により明らかとなった。また、評価を継続し、質の向上に向けて改善を積み重ねていくために、1年を3期（施設や職員の状況により、2期に変更する

等柔軟に対応）に分け、それぞれの課題に向けて取り組み、自己変容していくことを尊重したシステムとした。

施設長は、園内研修に適宜参加しつつ、一人ひとりの職員の自己評価を総合的に判断し、園としての評価を行うこととなる。ここでも、園内において、施設長と職員とが、評価基準という共通の事項を、保育実践等具体的な取り組みを通して、省察し、理解しあうことが重要である。このやりとりを通して、施設の理念や保育目標と日常の保育実践とが繋がり、職員一人ひとりが、施設という組織体の一員としての認識が強化されると考える。

本研究の対象である。認定こども園等幼保合同保育施設において、既存の保育所・幼稚園以上に、組織としての力量を高めていくことが求められる。これは、言うまでもなく、二元体制のもとで、子育て支援が必須の機能となる等多様性・柔軟性を求められる施設にとって、今までの保育所・幼稚園で積み上げてきた文化をもちつつ、両者のメリットを活かし、新たな施設を構築していくためには、施設長のリーダーシップのもと、職員一人ひとりが、組織体を構成する一員として、人間性、専門性を高め、組織としての力利用を高めるためには、具体的な取り組みが必要である。そのための有効な方法の一つが、本研究が提示する評価基準と評価システムである。

図7で示すように、園内研修を活用しての自己評価が、外部評価、公表へと繋がり、評価が客観的に、かつ、具体性をもって利用者や地域住民等に施設の情報として提供されることの意義は大きい。

ここでは、外部評価を「自己評価の適切性を客観的に評価するもの、すなわち、」と定義し、第三者評価を包含するものとする。外部評価で重要なことは、「当事者性（日頃からその施設のことをよく理解しているということ）・専門性（子どもの育ち、保育、子育て

支援等への理解を持っていること)・継続性(長期的な見通しをもって、絶えず改善を重ねていくということ)」である。こうした、自己評価と外部評価は、一回で完結するのではなく、循環性が求められ、保育に関わる施設長や職員の意欲の向上を促進し、また、公表により、利用者はじめ様々な人との関係の広がりと深まりにより、保育・教育を提供する側、受ける側という関係から、相互性のある、参画型の保育を構築していくことに繋げていくことが必要である。

評価結果は、他者・他園との比較が目的ではなく、保育者、施設長の自己変容・成長に主眼をおき、単純なランクづけにならないようにし、「子どもの最善の利益を第一義」にした質の確保された保育・子育て支援を行っていくための、評価のシステム、公表が必須である。公表にあたっては、保育所等で実施されている第三者評価や、本稿で検討したイギリスのOfstedにおいても、a, b, c等の段階的評価が示されている。このような公表は、わかりやすいというメリットはあるが、保育・教育という営みを数値化することの難しさは言うまでもないことである。

そこで、本研究では、自己評価と外部評価を実査しするプロセスでは、1年間を3期(原則)に分け、6段階で評価する等、きめ細やかな評価をするが、公表は、「評価の結果」で示すように、その施設のよさ、独自性を中心とした「特徴」、より質を高めていくための「課題」、「総合所見」、「園からのコメント」で構成され、より具体的な記述にするものを提言する。

Ofstedのホームページで公表された内容を紹介したように、それぞれの施設の状況が具体的にイメージできるようにすることで、利用者の選択に資するということと、更なる質の向上をめざすという評価の目的に合致するものとなるであろう。

②評価基準とその構成等について

本研究の成果として、資料6に示すように、「保育の質の向上にむけて～自己評価 ①<保育者編>②<施設長編>③<給食担当者編>を策定した。それぞれの冊子には、「<評価の目的><本冊子の構成><自己評価をするにあたって>」が記載されている。2年間の本研究の結果、評価基準が確定した。

・本研究での検討から、評価基準は、「改善への観点」としてとらえる。

・最低限保障されるべき内容—基本的な項目と園独自の良さを引き出す内容—特徴・個性に関するものとして構成される。

・認定こども園等幼保合同保育施設の機能の多様性・総合性・柔軟性を重視する。

・調査の結果を活かし、全体構成が就学前の保育・教育の基本である環境を通して行う保育の実践—さまざまな保育への保育者の援助のあり方—それらを支える運営管理という位置付けとなっている。

前述したように、評価の基本である一人ひとりの職員が、自ら、主体的に取り組む姿勢や実践を省察し、自己覚知のもとに、課題を明確化するために、評価は6段階とした。数値化することの困難な保育・教育に関わる内容、運営管理に関して6段階をどのようにさだめるかについて、多様な角度から検討した結果、以下のような結論とした。

評価は、できていないこと、問題探しが目的ではない。また、評価により意欲が向上することが目的であることから「できている(すべて・よく・かなり・まあまあ・少しは—100・80・60・40・20%)・できていない(0%)」という考え方とした。前述の自己評価の冊子には以下のように6段階を説明している。(保育者編について示す)

保育者

1 現在、全く取り組んでいないもしくは全く意識していない状況を示しています。

2 まだ十分ではないが、意識して取り組んでいるあるいは取り組みはじめた状況を示し

ています。

3 努力して取り組み、具体的な課題や成果が見えはじめた状況を示しています。

4 かなり努力して取り組み、子どもの姿などを通して常に課題や成果を認識している状況を示しています。

5 同僚との話し合いや見直しなどにより常に課題を明確に把握して、自信を持って取り組んでいると言える状況を示しています。

6 完璧に行っており、全く問題はない状況を示しています。

資料7には、3期に分けて評価していく際の具体的な方法を示している。一期は黒、二期は青、三期は赤と色分けし、各事項をラインでつなぐことによって、私の保育・取り組みの全体像と変化が視覚的にとらえることを可能にする。

今後は、パソコンを活用するなど業務の効率化を図り、前述した同僚等との話し合いに時間をかけるようにしたいと考える。

本研究で提示したものは、認定こども園等幼保合同保育実施園に必要とされる事項を包含している。それぞれが、項目の選択、評価時期、方法等工夫しながら取り組むことが望まれる。

IV まとめと今後の課題

本研究の2年間の流れが表3に示されている。本研究は「認定こども園」等幼保合同・一体保育施設におけるサービスの質（教育・保育の質）の向上に資するため、評価基準ガイドラインを策定することを目的とするものであった。

認定こども園については、保護者の就労の有無にかかわらず、全ての就学前の子どもに適切な保育・教育の機会を提供するとともに、在宅を含め地域の子育て家庭に対し、必要な相談・支援を行うこと、子育て支援が必須の機能として位置付けられた。既存の施設の枠を超えた認定こども園の機能・役割を踏まえ

た評価基準ガイドラインを示すことにより、保育・教育内容が適切に評価・点検され、保育・教育内容の質の確保及び向上に資することに繋がる。先行して実施されている保育所等の第三者評価、幼稚園における自己評価、Ofstedの評価実績等からの学びを生かして、法的に定められているから取り組むのではなく、今までにない、新たな施設を「乳幼児の最善の利益を第一義」した構築していくために、また、幼保の枠を超えた共通するシステムを構築していくために、本研究の評価基準・評価システムを今後、実践を通して改善していくことが求められる。

巻頭で石井哲夫先生が「まず子どもの未来を考え、当然ながら前方視野に基づく評価であって欲しい。」と述べられているが、その実現に向けて、評価基準そのもの、システムの更なる検討を継続すること、評価機関、評価者の質の確保、また、施設長のマネジメント力等検討課題が山積している。未来に向けて、前向きな評価は、取り組んでいて楽しくなるものである。子どもと共にする生活、仲間や保護者等と共に語り、実践者と研究者が共に考えあうことを楽しみながら、検討課題に取り組んでいきたい。

謝辞

本研究を進めるに当たり、多くの施設、行政、研究者の方々にご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。特に、平成17年度から1年半対象となった総合施設モデル事業園、さらに、モデル事業園ではないが、幼保合同保育に取り組んでいる4施設の施設長はじめ職員の方々には、多忙な折りに、様々な調査にご協力いただいたことへの感謝の思いは、言葉ではとても言い尽くせない。

参考文献

①増田まゆみ他 就学前の保育・教育を一体とした総合施設のサービスの質に関する研究
平成18年 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業

②増田まゆみ 見えてきた幼保連携の課題～
合同保育の研究から

平成17年 発達104 ミネルヴァ書房

③窪田真二・木岡一明 学校評価のしくみ
をどう創るか 平成16年 学陽書房

④群馬県教育委員会 群馬県「学校評価シス
テム」(幼稚園) 平成17年

⑤神奈川県私立幼稚園連合会研究部編 チェ
ックリスト(園長用) 試案 平成16年

⑥全日本私立幼稚園連合会 自己評価・自己
点検等検討プロジェクト 自己点検表 教職
員編 平成16年

⑦大阪府私立幼稚園連盟 教育研究所ワーキ
ンググループ 自己点検・自己評価チェッ
クリスト 教職員向け/設置者・園長向け
平成15年

⑧全国保育士養成協議会 児童福祉施設福祉
サービス第三者評価機関(HYK) 平成14
年度・17年度保育所版評価基準